

株主通信

第117期 第2四半期決算のご報告  
(平成22年4月1日～平成22年9月30日)





代表取締役社長

北島 義俊

株主の皆様には、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また日頃は格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

## ❖「P&Iソリューション」の推進

私たちは、中長期にわたって企業価値を高め、持続的な成長を実現していくため、事業ビジョンに「P&Iソリューション」を掲げ、「強い収益体質の確立」と「新規事業を創出する研究開発の推進」を重点戦略として取り組んでいます。

この「P&Iソリューション」とは、私たちが事業の実績を積み重ねて培ってきた印刷技術と情報技術を活用し、企業や生活者のさまざまな課題を解決に導くソリューションを提供することで、社会に貢献していこうというものです。

このような事業ビジョンを推進するためには、社会や市場の変化を捉え、企業や生活者自身も気づいていない課題をいち早く発見することが重要です。私たちは、顧客企業や生活者、社内外の多くの関係者との「対話」を繰り返し、これらの課題を解決する製品やサービスを提供することによって事業を拡大していきます。

## ❖“強い収益体質の確立”

「P&Iソリューション」を推進していくには、強い収益体質を備えた基盤作りが重要であると考えています。私たちは、製造部門を中心に業務プロセスの見直しや工程の合理化など生産性の向上に取り組んでおり、社員一人ひとりが常に利益志向を持ち続けることにより、強い収益体質作りに取り組んでいます。2002年には、グループを挙げて生産性向上を目指す「モノづくり21活動」を開始しました。全体最適をテーマに工程間や部門間の流れを円滑にして、徹底的に無駄を排除する効率的な生産システムの構築を進め、着実な成果をあげています。

## ❖ “新規事業を創出する研究開発の推進”

将来に向けた事業拡大には新規事業の創出が不可欠であり、そのための研究開発を怠りなく進めていくことが重要です。この考え方に基いて、私たちは、幅広い分野で研究開発を進めてきました。すでに、太陽電池やリチウムイオン二次電池関連製品などの**環境・エネルギー分野**、再生医療や医薬品、ヘルスケアに対応した**ライフサイエンス分野**など、新しい事業のコアになる技術を開発してきました。

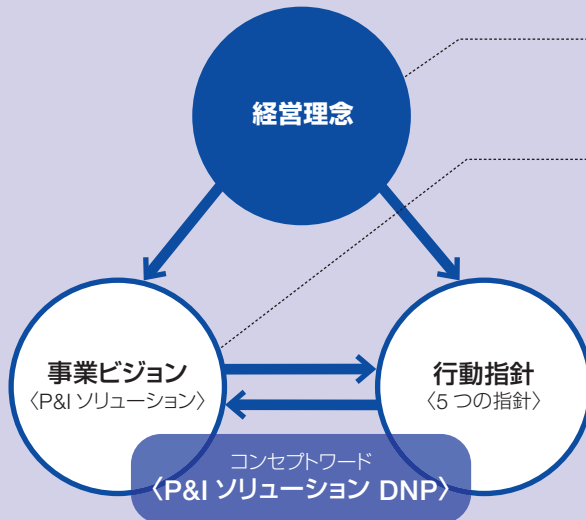
この新規ビジネス開発においては、その事業が、DNPの強みである印刷技術と情報技術に立脚し、企業や生活者の課題を解決するものになるよう心がけています。自らの強みを活かし、課題解決のための事業を推進することが、社会への貢献そのものであると考えています。

これらの事業戦略の効果を高めるには、DNPの独自技

術だけでなく、強みを持った企業との連携も必要です。これまでもエレクトロニクス製品やデジタルフォト関連、教育・出版流通事業などで、多くの企業との戦略的提携やM&Aを実施してきました。今後も国内外を問わず、競争力のある技術やノウハウを保有する企業との関係強化に取り組んでいきます。

DNPグループは、「P&Iソリューション」という事業ビジョンに基づき、積極的な営業活動を展開して、顧客ニーズに対応した製品、サービスを提供するとともに、“強い収益体質の確立”と“新規事業を創出する研究開発の推進”に注力していくことにより、業績の確保とさらなる事業の拡大に努めます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。



### DNPグループは 21世紀の創発的な社会に貢献する。

#### 「P&Iソリューション」

私たちは、印刷技術(PT)と情報技術(IT)を融合させて 創発的な社会における顧客の問題や課題を発見し、解決します。

※PT=Printing Technology, IT=Information Technology

1. 私たちが関わるあらゆる人と「対話」する
2. 課題解決に向け「自立・協働」する
3. 困難な課題にも果敢に「挑戦」する
4. 公正・公平を旨として、常に「誠実に」行動する
5. 自らの判断や行動に「責任」をもつ

## 『ルーヴル - DNP ミュージアムラボ』第2期がスタート

### 第7回展「外交とセーヴル磁器展 ヨーロッパの歴史を動かした華麗な器たち。」開催中

DNPとルーヴル美術館は、美術作品の新しい鑑賞方法を開発する共同プロジェクト「ルーヴル-DNP ミュージアムラボ」の第2期を、2010年10月に開始しました。このプロジェクトでは、ルーヴル美術館が所蔵する実際の作品を展示するだけでなく、新たに開発した鑑賞システムにより、それぞれの作品の歴史的な背景や技法などを紹介することで、作品へのより深い理解を促します。当プロジェクトを推進する常務取締役・北島元治が、取り組みの概要をご紹介します。

#### ■2006年から3年間の第1期の成果は？

プロジェクト第1期では、ルーヴル美術館の所蔵作品を展示し、新しい鑑賞システムを提案する6回の展示会を行い、約5万人の方にご来場いただきました。鑑賞者に、作品を手取るような疑似体験を楽しんでいただくなど、3次元CGをはじめとする技術を活かした新たな鑑賞方法を次々

と提案しました。「こんなにじっくりと作品を鑑賞する機会はなかった」という声も寄せられています。先駆的なITシステムや質の高いコンテンツ制作技術に裏付けられたこれらの鑑賞システムは、その一部が、ルーヴル美術館のパリ本館や上野の国立西洋美術館の企画展に採用されました。



展示作品と、DNPが独自に開発した鑑賞システム

#### ■第2期における主な取り組みは？

第2期で開発する鑑賞システムの一部は、DNPでの展示が終わった後に、ルーヴル美術館のパリ本館の常設展示室内で、実際の作品の近くに設置される予定です。これは、世界中からルーヴル美術館を訪れる年間850万人もの方々に、DNPが開発した鑑賞システムをアピールする絶好の機会です。また、そうした厳しい環境での実運用の状況を検証して、開発部門にフィードバックするための重要なステップとなります。

私たちは、ルーヴル美術館への導入を足がかりとして、日本だけでなく世界中の美術館にこの新しい鑑賞スタイルを提案していきたいと考えており、すでに、国内外のいくつかの美術館に具体的な提案を行っています。

また、中学校などの教育機関や美術館の教育普及担当の方たちと連携して、ワークショップ等の企画開発も進めていく計画です。

## ■当プロジェクトを推進する狙いは？

世界屈指の美術館であるルーヴル美術館の信頼を得て、パートナーとして共同プロジェクトを組んでいることは大きな名誉であり、DNPのソリューション力を世界にアピールするチャンスでもあります。

また、来館者とのコミュニケーションを深めるルーヴル

美術館の考え方は、DNPのコミュニケーション事業の推進においても、大いに参考になると考えています。作品との“対話”を実現する鑑賞システムは、展示会やイベント会場、店頭などでのソリューション開発にも活かせるでしょう。

ぜひ会場に足をお運びいただき、新しい美術鑑賞のあり方をご体験ください。



第7回展のオープニングイベントで握手を交わす北島常務(左)とルーヴル美術館・ロワレット館長



〔展示作品〕皇后マリア=テレジアの皿  
(王立セーヴル磁器製作所/1757年)



〔展示作品〕マリー=アントワネットの蓋付鉢  
(王立セーヴル磁器製作所/1784年)

- 主 催 ルーヴル美術館、大日本印刷  
 協 力 日本航空  
 会 場 ルーヴル・DNP ミュージアムラボ (東京都品川区西五反田3-5-20 DNP五反田ビル1F)  
 会 期 2010年10月23日(土)～2011年5月15日(日)  
 開 館 時 間 金:18:00～21:00、土・日:10:00～18:00  
 (金曜日が祝日の場合、保守点検日、展示替え期間、年末年始は休み)  
 申込・問い合わせ 観覧には予約が必要です(観覧は無料)  
 <Webサイト> <http://museumlabor.jp>  
 <お電話> ルーヴル・DNP ミュージアムラボ カスタマーセンター 03-5435-0880  
 受付時間 月～木 11:00～17:00/金 11:00～21:00/土・日 9:00～18:00  
 (月～金の祝祭日、年末年始は休み)

## DNPのオリジナル書体「秀英体」の100年の歴史をひも解く展示会 「秀英体100」をDNPの3つのギャラリーで開催

今から100年前の明治末期、DNPの前身である秀英舎が開発した活字「秀英体」は、完成に近づいていました。明治36年、43年、大正3年に総合見本帖を発行したほか、その後も、活字サイズや書体ごとの全字種見本帖などを発行しました。活版印刷にはじまり、DTP用、電子書籍用、映像用のフォントにも展開するなど、100年の間に秀英体も大きく変化してきました。

現在DNPは、秀英体のリニューアル事業「平成の大改刻」を推進しています。21世紀のコミュニケーションを支える情報流通基盤の進展にも対応し、高品位な書体の価値の再構築に取り組んでいます。明朝体とゴシック体のデジタルフォント、画面表示用フォント、携帯情報端末向けにデータ量を軽くしたフォント、ユニバーサルデザインに対応したフォントなどを順次開発し、商品化を進めていきます。

今回の企画展では、秀英体誕生100年を記念し、DNPが創業当時から引き継いできた秀英体という文化資産の魅力を、より広く、より多くの皆様にお伝えいたします。



■監修:永井一正  
■グラフィックデザイナー24名+1組による  
新作ポスター「秀英体の四季」も展示

●ギンザ・グラフィック・ギャラリー(ggg)  
2011年1月11日(火)~1月31日(月)  
東京都中央区銀座7-7-2 DNP銀座ビル1F  
(TEL:03-3571-5206) ※入場無料

●dddギャラリー  
2011年3月22日(火)~5月11日(水)  
大阪市西区南堀江1-17-28 なんばSSビル1F  
(TEL:06-6110-4635) ※入場無料

●現代グラフィックアートセンター(CCGA)  
2011年6月11日(土)~9月11日(日)  
福島県須賀川市塩田宮田1 (TEL:0248-79-4811)  
※一般=300円/学生=200円  
小学生以下と65才以上、および障がい者手帳を  
お持ちの方は無料

あぢさゝるや  
よれば蚊の鳴く  
花のうら

あぢさゝるや  
よれば蚊の鳴く  
花のうら

あぢさゝるや  
よれば蚊の鳴く  
花のうら

DNPがライセンス提供しモリサワから発売されたフォント  
(左から、秀英初号明朝、秀英明朝B、秀英明朝L)

## テンワプレス(シンガポール)

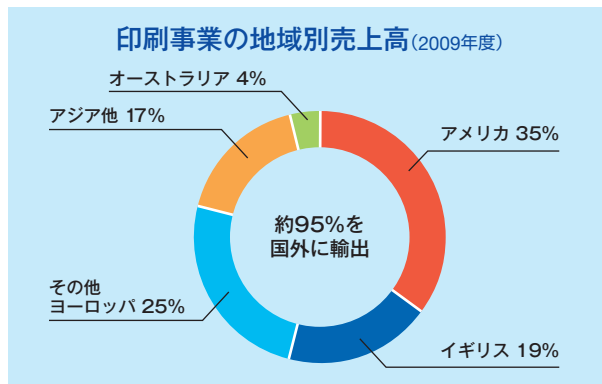
### ポップアップブックなどの強みを活かしてグローバルに事業を展開

DNPの100%子会社であるテンワプレス(Tien Wah Press(Pte.)Ltd.)は、シンガポールを拠点としてグローバルに事業を展開しています。ハードカバーの書籍やポップアップブック(飛び出す絵本)の製造などに強みを持ち、欧米の大手出版社などを主な顧客として、事業領域を拡大しています。

テンワプレスは1935年にシンガポールで設立されました。パンフレットなどの商業印刷を主に手がけ、1960年代にはシンガポール有数の印刷会社となりました。

絵柄が立体的に飛び出すポップアップブックの製造を1978年开始し、映画『スター・ウォーズ』のポップアップブックで、精緻な仕掛けの本を量産する高い技術力が評価されました。アメリカ、イギリス、フランス、オーストラリアにも営業拠点を開設し、1984年にはマレーシアのジョホール・バルに新工場を開設するなど、早くからグローバル展開を進めてきました。

シンガポールは世界でも有数の経済の拠点であり、国際的な物流インフラやビジネスネットワークなどが発達しています。また、政府機関による印刷事業の振興策や海外マーケティングの支援策が打ち出されるなど、良好な事業環境となっています。この環境のもと、テンワプレスは、商業印刷、出版印刷以外にも事業領域を上げていくとともに、東南アジアにおける印刷ハブ工場として、DNPの海外ビジネスの拡大に寄与していきます。



ポップアップブック(飛び出す絵本)の例

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策などにより一部に回復の動きがみられたものの、雇用情勢の悪化懸念に加え、期後半にかけての円高の進行や世界経済の減速などの影響を受け、経営環境は厳しさを増しました。

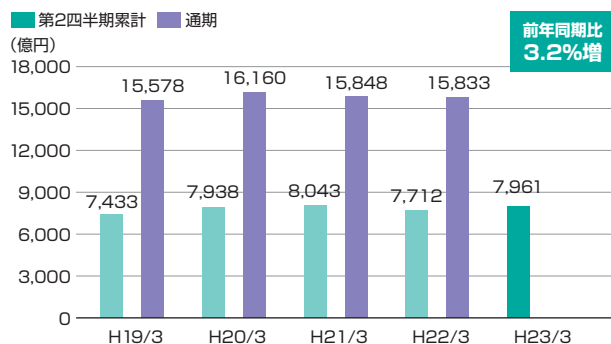
印刷業界においても、個人消費の伸び悩みや企業の広告宣伝費の低迷などの影響から競争は激化し、受注単価も下落するなど、厳しい経営環境が続きました。

このような状況のなか、DNPグループは、事業ビジョンである「P&Iソリューション」に基づき、積極的な営業活動

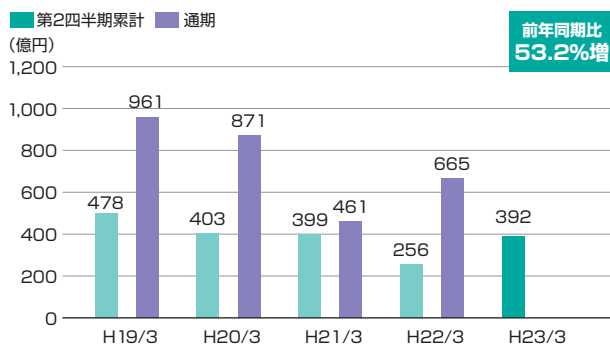
を展開して、顧客ニーズに対応した製品、サービスおよびソリューションを提供するとともに、品質、コスト、納期など、あらゆる面で強い体質を持った生産体制の確立を目指す「モノづくり21活動」にグループを挙げて取り組み、業績の確保に努めました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は7,961億円（前年同期比 3.2%増）、連結営業利益は392億円（前年同期比 53.2%増）、連結経常利益は391億円（前年同期比 57.0%増）、連結四半期純利益は172億円（前年同期比 117.5%増）となりました。

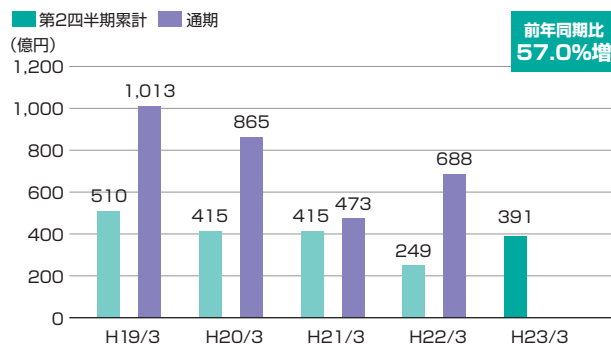
## 連結売上高



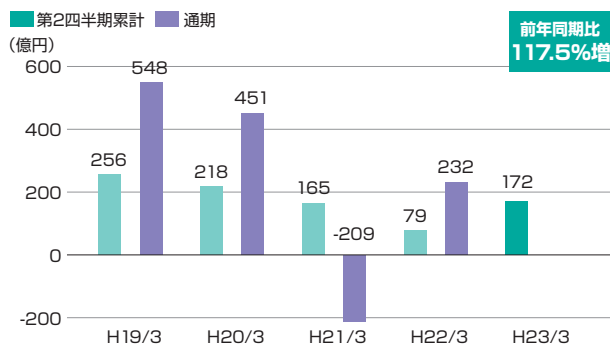
## 連結営業利益



## 連結経常利益



## 連結当期純利益





## 連結業績

当期(平成22年 4月1日から平成22年9月30日)  
前期(平成21年 4月1日から平成21年9月30日)

(単位:億円)

科目	当期	前期	増減
売上高	7,961	7,712	3.2%増
営業利益	392	256	53.2%増
経常利益	391	249	57.0%増
四半期純利益	172	79	117.5%増

## 連結業績の予想 (平成23年3月期通期)

(単位:億円)

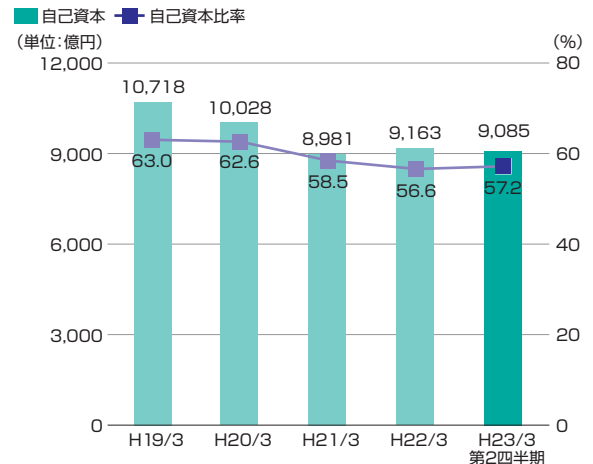
売上高	16,400
営業利益	750
経常利益	730
当期純利益	325

## 連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末
資産	15,879	16,188
流動資産	7,222	7,399
固定資産	8,642	8,772
繰延資産	14	16
負債	6,348	6,619
流動負債	4,429	4,719
固定負債	1,919	1,900
純資産	9,531	9,568

## 自己資本/自己資本比率



\*自己資本は、株主資本及び評価換算差額等の合計です。

## 連結キャッシュ・フロー

当期(平成22年 4月1日から平成22年9月30日)  
前期(平成21年 4月1日から平成21年9月30日)

(単位:億円)

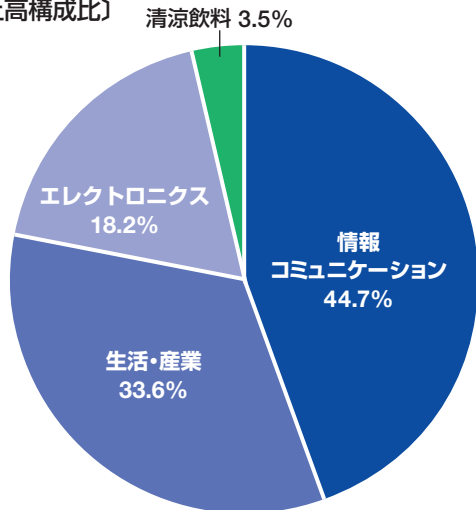
科目	当期	前期
営業活動によるキャッシュ・フロー	791	640
投資活動によるキャッシュ・フロー	△382	△586
財務活動によるキャッシュ・フロー	△235	130
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,675	1,373

## ■中間配当金のお支払いについて

当期の中間配当金は、平成22年11月11日開催の取締役会において、1株につき16円とさせていただきます。

## 部門別営業報告

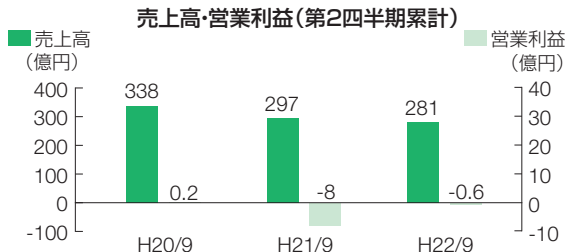
(売上高構成比)



### 清涼飲料事業

#### 清涼飲料部門

売上高	281億円	営業損失	0.6億円
前年同期比	5.4%減	前年同期比	—

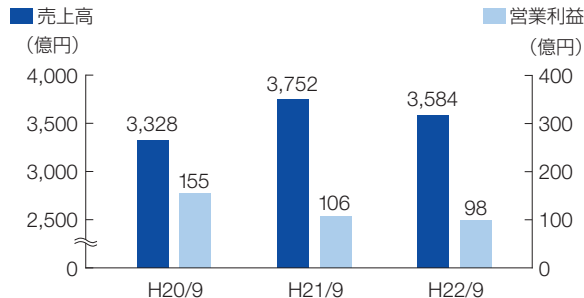


個人消費が低調に推移し、販売競争が激化する厳しい市場環境のなかで、主力商品の「コカ・コーラ」「ジョージア」のほか、国内最軽量ボトル「ecoるボトル しぼる」を使ったミネラルウォーター「い・ろ・は・す」の販売拡大に努めました。その結果、コカ・コーラ、ミネラルウォーターは増加しましたが、コーヒー飲料、ティー飲料が減少しました。

### 印刷事業

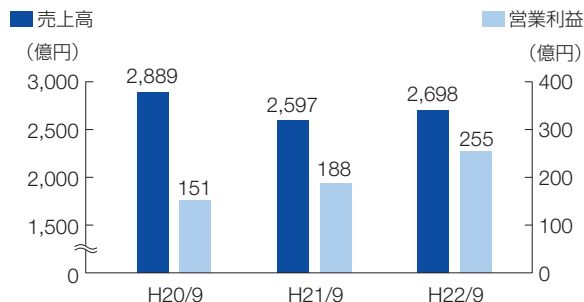
#### 情報コミュニケーション部門

##### 売上高・営業利益(第2四半期累計)



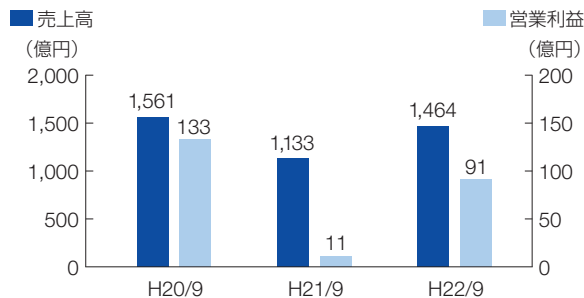
#### 生活・産業部門

##### 売上高・営業利益(第2四半期累計)



#### エレクトロニクス部門

##### 売上高・営業利益(第2四半期累計)



売上高	3,584億円	営業利益	98億円
前年同期比	4.5%減	前年同期比	7.1%減

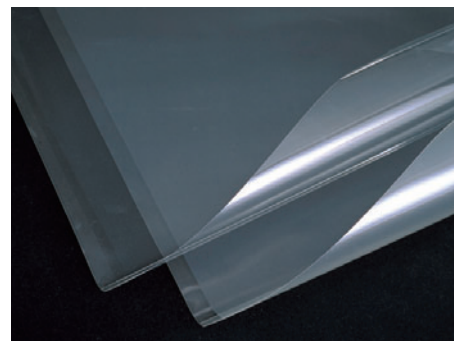
出版印刷関連は、長期にわたる出版市場の低迷により雑誌が減少し、前年を下回りました。商業印刷関連は、企業の広告宣伝費削減を受けて、チラシ、パンフレット、POPなどが減少し、前年を下回りました。ビジネスフォーム関連は、パーソナルメールなどのデータ入力から印刷・発送までの業務を行うIPS(インフォメーション・プロセッシング・サービス)、ICカードともに減少し、前年を下回りました。教育・出版流通事業は、書店での販売促進施策の効果や新規連結子会社の増加などにより、前年を大幅に上回りました。



「MARUZEN &amp; ジュンク堂書店」

売上高	2,698億円	営業利益	255億円
前年同期比	3.9%増	前年同期比	35.5%増

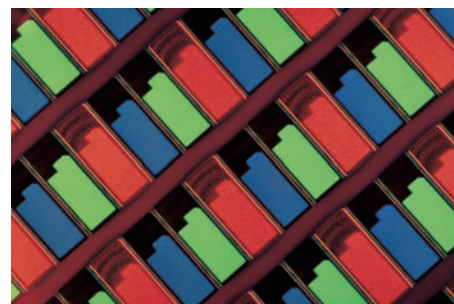
包装関連は、ペットボトルの第一次成型品プリフォームや紙カップは増加しましたが、軟包装材や紙器が減少し、前年を下回りました。住空間マテリアル関連は、住宅着工戸数が依然として低水準にあるものの、DNP独自のEB(電子線: Electron Beam)コーティング技術を活かした環境配慮製品などが増加し、前年を上回りました。産業資材関連は、薄型ディスプレイ用反射防止フィルムやフォトプリンター用の昇華型情報記録材(カラーインクリボンと受像紙)、太陽電池用バックシートなどが増加し、前年を上回りました。



ディスプレイ用光学フィルム

売上高	1,464億円	営業利益	91億円
前年同期比	29.2%増	前年同期比	691.2%増

液晶カラーフィルターは、期後半に一部に生産調整の動きがあったものの、大阪府の堺工場、兵庫県の姫路工場の本格稼働などにより、前年を大幅に上回りました。半導体関連については、フォトマスクは、半導体市場が回復に向かいつつあり、台湾に新工場を開設し海外需要の取り込みに努めました。一方、国内需要は依然厳しく、当社の売上も前年を下回りました。一方、高密度ビルドアップ配線板やハードディスク用サスペンションなどのエッチング製品は増加しました。



液晶カラーフィルター

# “フォーカスDNP”シリーズ【第4回:ICカードと情報セキュリティ】

このコーナーでは、私たちの暮らしと、DNPの製品・サービスとの密接な関係を分かりやすく紹介します。



近年、企業の重要情報や生活者の個人情報などを、より安全に、より適切に扱うことが強く求められています。DNPは、これらの情報を保有する企業や生活者を顧客とし、高度な情報セキュリティ基盤と、ICカードや情報処理の強みを活かした「セキュリティソリューション事業」を展開しています。

## ■ICカードの国内トップシェアを獲得

DNPは、1981年にICカードの開発を開始して以来、カードの製造加工技術、発行技術、ソフトウェア開発技術をバランスよく活かし、常に市場をリードしてきました。現在DNPは、国内ICカード市場全体で4～5割のシェアを獲得し、特にICキャッシュカードは、メガバンクや大手地銀を中心に約85%の金融機関に採用されています。また、社員証や交通カード、電子マネーなどで利用が急増している非接触ICカードでも約5割の市場シェアを獲得しています。

DNPは、接触式や非接触式の従来型ICカードに加え、表示機能付きICカード、接触・非接触共用の高付加価値ICカード、生体認証に対応したICキャッシュカードなどを次々に開発し、高いシェアを確実なものにしました。

また、ICカードそのものの機能向上だけでなく、ICカードやネットワークを使った多様なサービスの提供や、安心・安全な新しい生活スタイルの提案なども進めています。



## ■ 拡大するセキュリティソリューション事業

ICカード技術や認証技術を核として、安心・安全で便利なサービスを提供することが、DNPの考える“デジタルセキュリティ”です。

例えば、オフィスや学校などで、1枚のICカードだけで入退室やパソコンのログイン、プリンターの利用状況などを一元管理できるシステムが求められています。DNPは多くの企業とともに、オフィスセキュリティの共通仕様の構築に向けた企業連合、SSFC(Shared Security Formats Cooperation)を推進しています。オフィスや公共施設などでの情報セキュリティを高めることで、企業

の重要情報や生活者の個人情報の安全を確保していきます。

また、従来のようなカード形状にとらわれないセキュリティソリューションにも対応していきます。例えば、テレビやオーディオ、冷蔵庫などの家電、自動車、携帯電話などに組み込まれた“IC”がネットワークと接続し、コンテンツ配信や各種機能の設定、保守などを自動で行うソリューションを提供していきます。

DNPは、大量のICカードに個別情報を書き込むノウハウと生産能力を活かし、こうした魅力ある新市場の拡大をサポートしていきます。

## トータル・セキュリティ・ソリューション

物理セキュリティ  
(人の出入りの管理)

情報セキュリティ  
(PC等のデジタルデータの管理)

ドキュメントセキュリティ  
(紙文書の管理)



カード製造・発行 即時発行システム

労務管理・福利厚生

ICカード(社員証など)  
〔個人認証のキーデバイス〕

IDカードマネージャー:  
入社・退社・紛失・臨時発行など、  
カードの権限付与・削除、ライフサイクル管理

DNPは、ICカードおよび周辺システムに関する幅広い技術・知見を背景に、社員証仕様策定等のコンサルティング業務からシステム構築まで、幅広く事業を展開しています。

### DNPはICカード関連ノウハウを約30年にわたって蓄積してきました

ICカード製造・発行

国内最大の実績

ICカード  
OS(基本ソフト)開発

世界で唯一、  
3つのOSを開発

ICカード  
認証用ソフト開発

PKI(公開鍵暗号基盤)  
認証事業No.1実績

各種アプリケーション  
ソフト開発

OS開発実績を活かした  
ラインナップ

SSFC事務局運営

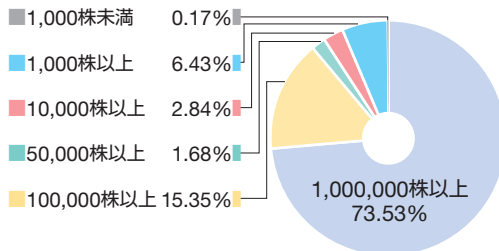
多くの企業との  
アライアンス活動

## 株式の状況

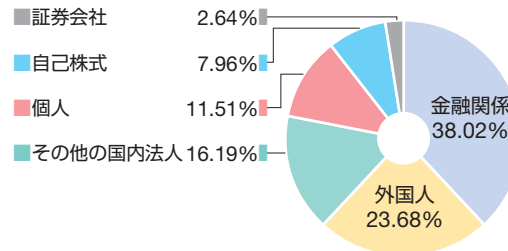
発行済株式総数  
700,480,693株  
(自己株式  
55,771,219株を含む)

当第2四半期末  
現在株主数  
30,887人

### 所有数別分布状況



### 所有者別分布状況

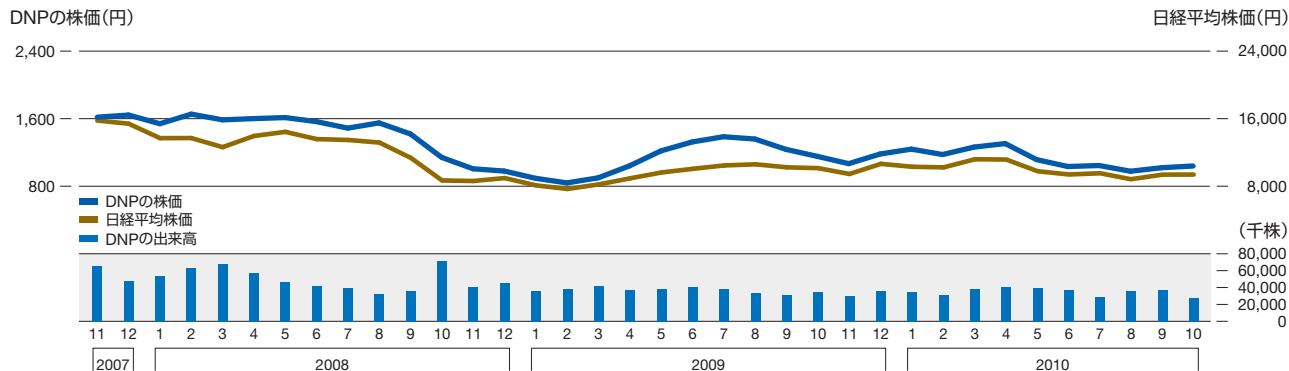


## 主要大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	39,607	6.14
第一生命保険株式会社	30,882	4.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	29,827	4.63
ザバンク オブ ニューヨーク メロン アズ デポジタリ バンク フォー デポジタリ レシート ホルダーズ	26,782	4.15
株式会社みずほコーポレート銀行	15,242	2.36
日本生命保険相互会社	14,349	2.23
株式会社みずほ銀行	12,471	1.93
自社従業員持株会	11,901	1.85
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	9,588	1.49
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	9,154	1.42

(注) 1. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式を控除した株式数(644,709,474株)を基準に算出しております。  
2. 自己株式は、上記大株主からは除外しております。

## 株価/出来高の推移



## ■ 会社概要

商号

大日本印刷株式会社

英文社名

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

本社所在地

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

電話：03(3266)2111 ダイヤルイン案内台

URL：<http://www.dnp.co.jp/>

創業

明治9年(1876年)10月

設立年月日

明治27年(1894年)1月19日

資本金

1,144億6,476万円



表紙：ルーヴル - DNP ミュージアムラボ 第7回展会場

## CONTENTS

株主の皆様へ	2
ニュース・クローズアップ	4
世界のDNPグループ①	7
第2四半期決算のご報告	8
“フォーカスDNP”シリーズ 【第4回：ICカードと情報セキュリティ】	12
株式情報	14
会社情報	15

## DNPウェブサイト(IRページ)



投資家の皆様がお知りになりたい情報を集約し、当社への理解を深めていただける内容となっています。ウェブサイトもぜひご利用ください。

<http://www.dnp.co.jp/ir/>

※当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。記載された意見および予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。  
※記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京・大阪
公告方法	電子公告により行います。(当社のウェブサイト <a href="http://www.dnp.co.jp/ir/">http://www.dnp.co.jp/ir/</a> ) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

### ※ 株式に関するお問い合わせ先・お手続き窓口

#### 1. 一般口座（証券会社の口座）にある株式

株主様が口座を開設されている証券会社の本支店

#### 2. 特別口座にある株式

特別口座とは、株券電子化までに、「ほふり」（証券保管振替機構）をご利用されなかった株主様につきまして、当社が、みずほ信託銀行に株主名簿上の株主名義で開設した口座です。

（お問い合わせ） みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
（フリーダイヤル）0120-288-324

（お手続き） みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店、  
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

### ※ 単元未満株式に関するお知らせ

1,000株に満たない株式（単元未満株式）を所有されている株主様が、当社に対しその単元未満株式と合わせて1単元（1,000株）になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買取請求につきましても、お取り扱いしております。

#### ● DNP Report に関するお問い合わせ先

**大日本印刷株式会社** 広報室 〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
TEL:03-3266-2111（ダイヤルイン案内台）



グリーン電力を導入しました（年間100万kWh）。この報告書を印刷する際の電力（339kWh）は、自然エネルギーでまかなわれています。